

1. ごあいさつ

皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

本年度最大の行事であります第4回日本体操学会が、女子栄養大学において、平成16年9月11日・12日の2日間開催され盛会のうちに無事終了いたしました。

第4回大会の学会のテーマは「現代に求められている体操とは」をとりあげ、シンポジウムや討論の企画を立てました。

基調講演は「生活習慣病からみた正しい食事のとりかた」というテーマで、女子栄養大学学長の香川芳子先生にご講演をお願いいたしまして、大変分かり易く新鮮な情報として、日常生活にて実行できる多くの示唆を頂きました。

また近年では、社会における体操への期待やニーズが、特に高くなってきている傾向が見られますが、このような時代におけます、体操家への期待は何なのか、などについて、各分野からの現状と問題点などの報告や提言を頂きました。

これからの体操が、現代社会のニーズにあった研究やその普及、また実践のために興味をもって手軽に活用できる体操として貢献することを求め、有意義な研究やディスカッションができますことを今後の日本体操学会に大いに期待したいと思います。

おわりに、この学会に、参加されました皆様と学会大会のご後援やご協賛を賜りました各社、それに大会運営委員の方々、会場の提供を頂いた女子栄養大学に対しまして心より感謝とお礼を申し上げます。
(会長；春山 国広)

2. 平成16年度日本体操学会総会報告

平成16年9月11日(土)に女子栄養大学坂戸校舎文化ホールで平成16年度日本体操学会総会が開催されました。参加者は67名でした。詳細は議事録を参照してください。(理事長；吉中 康子)

3. 平成15年度「いいからだの日」報告

2003年度のいいからだの日に29,779人の参加があったことが報告された。詳細はCD-ROMにまとめて配布した。2004年度「いいからだの日」は、33事業がエントリーしている。いいからだの日も今年で5回目となり、体操の事業についてのノウハウも報告書にまとめられ、充実してきた。今後は、全国の体操関係の学術研究会、講習会・ワークショップ、イベント、体操祭・発表会、その他等に分類し、体操カレンダーとしてインターネットで紹介していくこととなった。来年度から始めるには今年の12月から始動する必要があるので、2005年度の企画である「体操カレンダー365日」作成に向けて、情報提供をお願いしたい。現在、日本体操学会ホームページから登録できるように検討中である。(理事長；吉中 康子)

4. 日本体操学会第4回大会報告

1. 基調講演

日本体操学会第4回大会初日のプログラム最初に行なわれた基調講演(9月11日13時10分～14時10分)について報告する。

基調講演のテーマは「生活習慣病からみた正しい食事のとりかた」で、講演者は、現在、女子栄養大学・同短期大学学長で、香川栄養専門学校校長でもある香川芳子先生であった。講演内容は、国民の食と病気の関係についての現状を図表で具体的に示しながらご説明があった。また、先生は、栄養クリニックを開設して、診療処方を実施し、さらに食による生活習慣病の予防の実践方法については、四群点数表にそって各群の食品例から摂取する食品と点数を具体的にあげての解説であった。先生の長年のご研究領域は、大変広く、食、医療、教育、福祉に渡り実例を交え、解かりやすく、また、説得力のある内容で時間も足りないほどの熱心なご講演であった。（春山 文子）

2. シンポジウム

「現代に求められている体操とは」について、教育界、出版業界、公園用健康器具・施設施行業界、健康増進関連（行政）、福祉関連の5分野より登壇していただいたシンポジストに、体操に何を期待するかについて発表していただき、その後フロアとの質疑応答が行われた。日頃あまり接触が多くない様々な業界の話幅広く聞いたので良かった。体操界に対して外からの指摘は新鮮に感じられた。（荒木 達雄）



3. トピックス

11日（土）午後、シンポジウムに引き続いてトピックスが行われた。このセクションは体操の実践活動や活用に焦点を当てた、最新の情報および話題を提供することをねらいとして企画された。

発表は7演題の多岐に渡る内容であったが、学校現場からの話題については障害児の体操紹介のみであった。この領域からも多くの発表が行われることを期待したい。また限られた時間の中で、提供された話題について議論をすることはできなかったが、懇親会での情報交換に繋がり、意義深い企画であった。（後藤 洋子）

4. 研究発表

昨年度より6題増えて14題、その内容も実践研究が9題を占めて「動いて学ぶ」体操学会としては大成功であった。内容においても、注目される発表が多く、学会の電子ジャーナルに投稿されることを期待する。ただ、アンケートで、発表時間、質疑応答が短く、フロアとのコミュニケーションが不足したと指摘されており、発表時間の延長や2会場での実施を検討する必要がある。このほか、トピックスやワークショップで発表した方がより良かった発表もあり、これら3つの分野の独自性と関連を次回の大会には明確にしたい。（古川 善夫）

5. 特別セミナー

女子栄養大学の石田裕美助教と亀井明子講師の指導の下、女子栄養大学スポーツ栄養管理実習履修学生19名による特別ランチオンセミナーが開催された。爽やかな学生の対応はもちろん、温かく美味しい料理と具体的でわかりやすい説明や資料に、参加者からは満足の笑顔があふれていた。日々の生活を振り返り、参加者自身が「食」について再考する良い機会になったと思われる。（大島 林子）



6. 公開ワークショップ

第4回大会の最終日には公開によるワークショップが用意され、参加者はこの時間にのみ会場に駆けつけた近隣の体操愛好家と共に、様々な形式や手具・道具による実践プログラムを体験した。ほとんどの参加者からは気軽に実行でき、適度な運動であった。おのこの可能性を発見し認識を新たにした。どれも興味深かった等の感想が寄せられた。特に興味のある内容をグループに分かれて体験したかったとか、一つ一つをもう少しじっくりと実施し、覚えたかったなどの声もあったが、どの運動においてもみなで一応に動くことができ、なんともなごやかに体操の醍醐味を味わえた約2時間であった。(南 明恵美)



5 . 日本体操学会第5回大会のご案内

日本体操学会第5回大会は北海道深川市で平成17年9月17日(土)～18日(日)に開催されることになりました。テーマは「0歳から100歳までの体操 - 運動実施とその評価 - 」で、会場は深川市青年の家(貸し切り)の予定です。第5回大会では、学会当日の参加が困難な人達にも広く参加してもらえるよう、全国からビデオによる体操作品を公募し上映会を計画しています。その他にも、北の地、北海道ならではの企画が盛りだくさんの予定です。会員の皆様におかれましては、前泊・後泊を含めてスケジュールの調整をしていただき、御参加くださいますよう、お願い申し上げます。(後藤 洋子)